

# 熊本県五木村

## ■熊本県五木村役場



調査日 2012年12月20日(木)



事業者 宮崎県小林市

## 1. 調査目的

応募団体(宮崎県小林市)では、庁舎建て替えに伴い内装木質化を検討している。また、市町村合併により市の森林面積が拡大し、市有林を利用したいと考えている。そこで熊本県五木村役場庁舎の内装木質化を視察し、体感するとともに、地域材を使用することに対し、配慮しなければならないポイントについて調査を行った。

## 2. 調査より得た知見

### (1) 五木村の概要

五木村は人口1,300人、550世帯で村の面積の約96%が山林である。昭和41年に建設省(当時)が相良ダム(川辺川ダム)の建設計画を発表し、それから33年経過後に建設事業がスタートすることになった。その影響によって現在の場所に役場移転が決定し、村の山林を活用した庁舎を建設することとなった。(ダム建設計画は現在中止となっている。)

移転に際し熊本大学の協力で、村の景観を保護するデザインコード(強制力はない)を定め、住民に協力を依頼しまちなみの統一化を図っている。

### (2) 庁舎建設にあたって

#### <設計コンペの実施>

庁舎建設に際し、村では設計コンペにより設計者を決定した。その設計コンペの応募要項に提示された特徴的な条件として、下記3点が挙げられる。

- ・熊本県内に事務所を構えている設計者であること
- ・原則として木との混構造もしくは木造であること
- ・庁舎建設へ向けた村の思いを伝えるための「子守唄の里づくり計画主旨説明会」には必ず参加すること

上記の他、応募要項には明記されていないが、村が支給する木材を使用することも条件として挙げられていた。最終的に木造一部RC造の混構造で建設された(写真1、2)。



写真1 五木村役場



写真2 五木村役場

### ＜木材の使用について＞

庁舎建設に用いられた木材の総量は、スギ323㎡、ヒノキ20㎡、マツ12㎡であった。庁舎の見どころはホール吹き抜けに面した通し柱と大梁で、通し柱には村内にある国有林のスギ、大梁には県有林のマツが使用されている。このスギとマツについては村が支給した材で、設計コンペの審査が終わる前にすでに伐採されていた。当時の村長が元森林組合長であり、役場と森林に対する強い思いを設計者に伝え、建築に取り入れたものであった。他の材については、支給ではなく一括発注とし、地域材もしくは県産材を極力使用するように施工会社をお願いしたものの正式な文書等による依頼は行っていない。そのため村内の木材をどの程度使用したのか検証はできていない(写真3、4、5)。

村が支給した材は、大径木のためねじれが生じ、一部利用できないものもあった。

村内には素材生産者がおらず村内の木材の伐採・搬出には県内の森林組合連合会に依頼した。また製材所は、小径木に対応できる加工場があるのみのため、大径木は隣接する八代市で加工した。



写真3 ホール吹き抜けに面したスギの通し柱



写真4 ホール吹き抜け上部のマツの大梁



写真5 スギの手摺り

## (3) 維持管理

### ＜内装＞

竣工後しばらくの間は、内装の損傷を防ぐために二足制とし庁舎内をスリッパとしていたが、村には高齢者が多く(高齢者率約41%)靴の履き替えが負担であるという声があったため、現在では土足のまま入館できるようにしている。

竣工後1年で梁に使用しているマツのねじれが目立ってきたため、隙間が見えないように枠を設ける補修を行った。また、柱等の割れについて指が入るほどに亀裂が生じていた箇所は、一部樹脂で埋めるなどで利用者のけがの防止のため対応した(写真6、7)。

内装のメンテナンスは特に行っていないが、職員が交代で毎日モップがけを行っている。加えて年に1度、連休前にワックスがけを行っている。

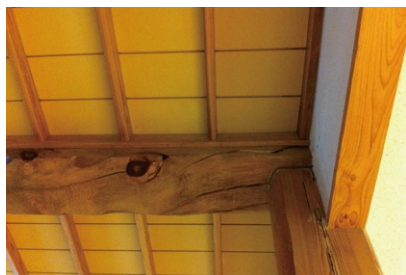


写真6 ねじれ対策の補修



写真7 柱の割れ

### <外装>

五木村は霧の発生が多い地形であり湿気が多い気候だが、庁舎外装については今のところ問題は発生していない。ポーチ独立屋根の柱が風雨に直接さらされていて劣化が進んでいるが、独立屋根のため、改修については大きな問題は出ていない（写真8、9）。



写真8 ポーチ独立屋根の柱



写真9 庁舎外装

別の建築物（平成15年に建設された村内の小学校）ではバルコニーに使用していたデッキ材が不適切な維持、補修で腐朽してしまい、補修費に2,100万円かかった（校舎と体育館）。

## 3. 木造で建設したメリット

まず、村内では、住民の方々に木の香りがよいなどと喜んでもらえたことがメリットであった。庁舎をきっかけに、小学校、中学校、道の駅、駐在所、森林組合などの建築物に木材が利用されることとなり、木を使う文化を定着させることができた。

村外へ向けたメリットには、数々の建築の賞（第8回木材利用大型施設コンクール熊本県賞受賞、第15回くまもと景観賞受賞など）を受賞したことで、村のPRとなり村を知ってもらえるきっかけが増えたことが挙げられる。

## 4. データ

名称	五木村役場		
サブ名称	庁舎		
所在地	熊本県球磨郡五木村甲字下手2672番地の7		
用途	事務所		
施設の概要・特徴	木造		
	一部RC造（内装木質化）		
規模	敷地面積	3800㎡	
	延べ面積	2792.89㎡	
	階数別床面積	1階	1180.13㎡
		2階	1027.24㎡
	階数	地上	2
		地下	-
構造	構造形式	混構造	
防・耐火上の要件	防火上の地域区分	指定なし	
木材利用	木材の発注方法	材工分離発注方式	
	工夫したこと	五木村の96%が山林であることと、景観条例の重点地域に指定されているため、木材の利用を促進。大柱や梁は、村内の杉・松を使用し、材料として支給した。	
関係者	発注者名称	五木村	
	施工者名称	西松建設(株)熊本支店	
	施工者の発注方法	入札	
	設計者名称	(有)AIR	
	設計者の発注方法	プロポーザル	
	発注方法詳細	熊本県に登録している建築士事務所に所属する一級建築士。実施設計及び監理に際し、即座に対応できるもの。共同設計することが出来る。	
	構造設計者名称	(有)AIR	
	木材供給者名称	五木村	
スケジュール	竣工年	2002年3月	
	設計期間	1999年12月～2000年10月	
	施工期間	2000年12月～2002年3月	
コスト	建設費	1,009,558,799	
	設計費	12,592,000	
	監理費	1,140,000	
維持管理計画	予算措置の有無	無	
	計画表の有無	無	
	工夫したこと	掃除は、職員が毎日課ごとで担当。	